

「特集ワイド」へご意見、ご感想を t.yukan@mainichi.co.jp ファックス 03・3212・0279

特集 ワイド

18歳選挙権 君が投票しないと 未来は真っ暗



小黒一正さん

「学生服姿の有権者」が見られるかもしない。来夏の参院選から18歳、19歳が投票することになったのはなるほど「明るいニュース」だろう。だが、彼らを迎えるようとしているのは、いったいどんな社会なのか。あえて言う。若者たちよ、君たちが真剣に考えた「票を投じない限り、真っ暗な未来が待っているだけだ」と。

「学生服姿の有権者」が見られるかもしない。来夏の参院選から18歳、19歳が投票することになったのはなるほど「明るいニュース」だろう。だが、彼らを迎えるようとしているのは、いったいどんな社会なのか。あえて言う。若者たちよ、君たちが真剣に考えた「票を投じない限り、真っ暗な未来が待っているだけだ」と。

若者負担 祖父母より1億円損

いつたいなぜ、これほどの差が生じるのか。一番大きな要因は、世界で最も速いスピードで高齢化が進み、同時に少子化も進んでいます。これだけ世代間格差が大きくなることは他にありません」と小黒さん。かつての日本の人口構成は、若い世代が多く、高齢者が極めて少ないピラミッド型だった。実際、全人口に占める65歳以上の高齢者の割合(高齢化率)は60年には5・7%だったが、今や25%を超えてこれほど大きな格差があるという。何かの冗談だらうか。

「孫の世代は、祖父母の世代よりも1億円以上も損をしているといふのが今の日本の実態です。深刻な問題で、それが何よりも深刻な問題であります」と小黒さん。小黒さんは、人が生涯のうちに、政府から受け取る医療や介護などの「受益」から、政府に支払う税金や保険料などの「負担」を差引いた額を世代ごとに推計してみた。それによると、60歳以上(1954年以前の生まれ)の世代は受益分が約4000万円。これに対し、将来世代(80年以降の生まれ)はなんと、約8300万円も負担分が上回る。この格差が実際に

いる。多くの高齢者が支えたため、若い世代の負担は当然、重くなる。ただ、少子高齢化という社会現象だけが格差の要因ではない。問題は、ピラミッド型の人口構成を前提とした既存の社会保障制度の改革が、できないことです。これは選挙制度のメカニズムと密接に関係しています」

民主主義が始まった当初は、高額な税金を納めている人だけが選ばれていました。日本がギリシャみたいにならないために、若者が声を上げなければなりません。これが、まさに、日本の政治が維持できないという推計もあります。今から改革すれば、まだ間に合つんす。早く、もたないです。0年ごろになれば消費税を100%にしないと財政が維持できません。そこで改めて、政治家たちが改革の話を始めたら、文句ばかりを浴びせられ、揚げ句に次の選挙で落選してしまう。結果、「頑張ってもどうにもならない機械で大混乱に陥つてしまつて、その警鐘は現実味を帯びて聞こえます」

「学生服姿の有権者」が見られるかもしない。来夏の参院選から18歳、19歳が投票することになったのはなるほど「明るいニュース」だろう。だが、彼らを迎えるようとしているのは、いったいどんな社会なのか。あえて言う。若者たちよ、君たちが真剣に考えた「票を投じない限り、真っ暗な未来が待っているだけだ」と。

統報 真相

挙権を持ち、税金の使い道を決めた。その後、すべての成人男性、成人女性と選挙権を持つ人が広がり、税金の使い道は主たる納税者である働く人に向けられたほか、高齢者のための年金制度も運営された。だが、それが田滑に進んだのは、高齢者の数が少なかつたからだ。少子高齢化が進むことで、年金を受け取る高齢者の比率が拡大。有権者として政治的影響力も増した。「年金の支給開始年齢を引き上げる、医療費の自己負担を増やすなど改革の方法はいろいろある。ただ、少子高齢化という社会現象だけが格差の要因ではない。問題は、ピラミッド型の人口構成を前提とした既存の社会保障制度の改革が、できないことです。これだけが格差の要因ではない。問題は、選挙制度のメカニズムと密接に関係しています」

民主主義が始まった当初は、高額な税金を納めている人だけが選ばれていました。日本がギリシャみたいにならないために、若者が声を上げなければなりません。これが、まさに、日本の政治が維持できません。そこで改めて、政治家たちが改革の話を始めたら、文句ばかりを浴びせられ、揚げ句に次の選挙で落選してしまう。結果、「頑張ってもどうにもならない機械で大混乱に陥つてしまつて、その警鐘は現実味を帯びて聞こえます」



模擬投票をする高校生たち。若者の政治参加が改革の力に
なる——衆院選第2議会選で6月17日 山本晋撮影

例えば教育費。経済協力開発機構(OECD)の調査では、日本の教育予算が国内総生産(GDP)に占める割合は3・6%(2011年)で、データが比較可能な加盟31カ国中で最下位。トップのデンマーク(7・5%)の半分以下といふ貧しい状況にある。

「今の社会で最も深刻なのは母子家庭だと思います。その状況というのは——」田中さんが続ける。核家族化している現代では夫がない若い母親は自分の両親の助けも得られず、食べるために必死に働く。だが幼い子供を預ける保育施設が足りない。なんとか保育園に入所させても預かってもらがっている。戦後最低の投票率(52・66%)だった昨年末の衆院選では20歳代の投票率は39・58%となり、60歳代(68・28%)の半分に満たなかった。なぜか。田中さんはこう強調する。「最大の問題は、若者たちの政治への無関心は広い」と思っていること。そういう理由は三つあります」



田中愛治さん=宇田川恵撮影

政治はあなたたちのもの

「一つ目は教育現場。特に公教教育

の場では『政治的中立性』を重視

するあまり『国会は2院制』『衆

議院の任期は4年』といった知識

しか教えない。

『僕自身、高校ま

での『政治』の授業は知識を暗記

するだけ。無味乾燥で本当につま

らなかつた。でも政治の本質って

いのには、公共政策を決めてこ

なんですよ』。例えば、ある市が保

育所に入れない待機児童をゼロに

しようとした時、市長は何をし、

市職員はどう動き、市議は何を決

めのか。待機児童に関心がない

が好む政策を掲げよう、などい

つまでも考えていたと、将来潮

目が変わつて若い人が投票に行く

問題。投票してくれるお年寄り

こう話す。『永田町で政治家がど

う動いたとか、政局の話は大半の

国民にとってどうでもいい。政策

そのもの、政策が決まる背景をも

つと報道してください』

そして三つ目が政党と政治家の

問題。投票してくれるお年寄り

が好む政策を掲げよう、などい

つまでも考えていたと、将来潮

目が変わつて若い人が投票に行く

ようになつたら、選挙で大敗して

しまいますよ』

「18歳の1票」が、いびつな政

治のバランスを取り戻すきっかけ

になるか。日本全体にとつても正

に間違った政治家がいる

から

政治家がいる

からだ。『政治家は自分たちのものじやない』と思つてゐること。そつた

てない自分が親にならないと分

からないかもしないけど、若い

人に関係する政治的な問題は実際

にはたくさんあります。アルバイ

トに重すぎると責任を負わせるのう

うで、正規雇用者の給料より安く

こき使われたら、誰だってやる気

も夢を持ってないじゃないですか

幼い子供を抱えて生活苦にあ

る

境で、正規雇用の環境に

生きていなかった時から今まで

の選挙で投票しているというタレ

ント、春香クリスティーニーさん

(23)は真剣な表情で話す。「子育

ブラックバイト、教育 身近な問題



春香クリスティーニーさん
=宇田川恵撮影

「政治の比重が高齢者に偏ってゆがみ、予算配分のバランスも欠いている」と険しい口調で話すのは、世界政治学会(I.P.S.A.)会長

を務める早稲田大教授(投票行動論の田中愛治さん)だ。高齢者の声を反映した『ブルバ一民主主義』が日本全土を覆う中、若者の将来に向けて役立つ予算さえ乏しくなっている。

田中さんは大票で、正規雇用が増えている現状も重大な問題だと田中さんは言つ。『若い人がずっと非正規雇用のまま働き続け、その数が増えれば、

八方ふさがりですよ。なぜ、母子家庭に十分な支援が届かないのか。政治家にとって、若い母親は大票ではないからです』

田中さんは言つ。『若者自身が今こそ政治に

関わってるのは未来の扱い手だから将来、起こり得る苦境を打開するには、若者自身が今こそ政治に関わってほしいと思います』

重大な問題だと田中さんは言つ。『若い人がずっと非正規雇用のま

んか、不安定な雇用で希望もなく働いて、その姿は明日の自分かも知れないのだ。国会で紛糾している安保法制を巡る議論だって、一番

心に言う。『政治と私たちって、なんかかけ離れているような気がするけど、実はそうではありません。気付いた時には大変な環境になつていて『あー、どうしよう!』と困つてからでは遅いんです。若い人が日々のいろいろな問題に早く気づき、関心を持っていかなければなりません』

政治家の街頭演説を聞くのが好きで、『政治家の街頭演説を聞くのが好きで、その姿は明日の自分かも知れないのだ。国会で紛糾している安保法制を巡る議論だって、一番

心に言う。『政治と私たちって、なんかかけ離れているような気がするけど、実はそうではありません。気付いた時には大変な環境になつていて『あー、どうしよう!』と困つてからでは遅いんです。若い人が日々のいろいろな問題に早く気づき、関心を持っていかなければなりません』

政治家の街頭演説を聞くのが好きで、その姿は明日の自分かも知れないのだ。国会で紛糾している安保法制を巡る議論だって、一番

心に言う。『政治と私たちって、なんかかけ離れているような気がするけど、実はそうではありません。気付いた時には大変な環境になつていて『あー、どうしよう!』と困つてからでは遅いんです。若い人が日々のいろいろな問題に早く気づき、関心を持っていかなければなりません』